

障害のある人の表現と伝統工芸の発展と 仕事づくり

主催 一般財団法人たんぽぽの家
助成 日本財団
実施期間 2020年4月～2021年3月

／目次／

1. 事業概要 …p2

2. 実施内容 …p4

2.1 リサーチツアー

2.2 レジデンス

2.3 ウェブサイトでの掲載と発信

1. 事業概要

主催 一般財団法人たんぼぼの家
助成 日本財団
事業名 障害のある人の表現と伝統工芸の発展と仕事づくり
実施期間 2020年4月1日(水)～2021年3月31日(火)
実施主体 一般財団法人たんぼぼの家 (奈良市六条西3-25-4)

○趣旨

〈最終目的〉

伝統工芸分野における障害のある人の仕事づくりを進めることにより、生まれてくる作品・工芸品、ならびにその背景となる文化を世界にむけて発信する。また、伝統工芸にかかわる職人や工房、メーカー、ギャラリーや発信メディアらと継続的にワークショップや展覧会、議論の場を設け、各地域にねざした発信、生活への提案を行うことで、障害のある人の新たな社会参画を進めるとともに、所得の向上に寄与することを目的とする。

〈中長期 *3年後〉

高齢化等により担い手の少なくなった伝統工芸の分野に対して、障害のある人とともに具体的に作品や工芸を制作する。また、地域の住民等がよく通うお店やギャラリーなどで展示販売を行ったり、ウェブサイトを通じて海外も視野にいれて広く普及、販売を行う。

1年目：障害のある人と伝統工芸作家の協働の可能性を提示するとともに、各地域にねざしたネットワークをつくる

2年目：体験型イベントの仕組みづくりとネットワークの拡大

3年目：事例や体験型イベントを再編集し、障害のある人の社会参画の新たなモデルとなる

○実施概要

リサーチツアーやそのあとの報告会といった交流型事業を実施した。障害のある人、伝統工芸作家がたがいに関心をもち、ものづくりのパートナーとなることのモデルづくりに取り組んだ。福祉関係者を含め伝統工芸の分野での障害のある人の職域開拓を行なっていきたい人たちのネットワークを構築した。

リサーチツアーは全国3地域にて実施した。伝統工芸の産地をまわり、伝統工芸を新たな視点で発信している職人やコーディネーターらとの交流を通して、福祉の現場にもいかしていけるような視点を見出すことをめざした。ツアーのようすはオンライントークセッションで報告し、ツアーに同行しなかった福祉関係者にゲスト出演。レジデンスは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。障害のある人と作家が互いの施設や工房等に滞在しながら、共同して作品や製品を制作し、各々のものづくりへの姿勢、技を交換することで福祉の精神性と伝統工芸のマッチングを図る目的で計画していた。ほか、通信販売ウェブサイトを新規開設・運営した。

2. 実施内容

2.1.リサーチツアー

伝統工芸の産地をまわり、伝統工芸を新たな視点で発信している職人やコーディネーターらとの交流を通して、福祉の現場にもいかしていけるような視点を見出すためのスタディツアーを国内3地域で実施した。現地で実践にとりくむコーディネータの案内のもと、工房やメーカーなどを2日間をかけてまわった。

トークセッションでは、このスタディツアーの報告を、オンラインで配信した。障害のある人とのづくりに取り組む人たちや、伝統工芸のあらたな魅力を考えていきたい人たちと共有して、これからの福祉と伝統工芸へのヒントをみいだしていくことを狙った。

2.1.1.愛知（焼き物）

日 程 2020年10月19日(月)、20日(火)

訪問先 有限会社丸よ小泉商店、有限会社山源陶苑、鯉江明、水野製陶園ラボ
有限会社丸安、ワークセンターかじま、INAX ライブミュージアム

コーディネータ 高橋孝治（プロダクトデザイナー）

調査者 岡部太郎、森下静香

愛知県常滑市は、生産量の最盛期は過ぎたものの土管などの窯業が根付く他方、現在も活躍する個人の作家たち、問屋や陶芸美術館などが交錯した土地である。茶器専門の卸問屋、常滑焼を現代風にデザインする店、手作りの窯と同じ敷地内から採れる土で作陶する作家、タイル工場やその原土工場をまわった。衛生陶器会社が実用品と工芸品の両方を紹介する美術館や、そこに納品する福祉施設もたずねた。



○ オンライントークセッション

「焼き物の産地常滑から考える ―障害のある人の表現と伝統工芸の発展と仕事づくり―」

日 時 2020年12月14日(月) 18:00~19:30

出 演 ・高橋孝治：ツアーコーディネーター

・前川紘士（アーティスト）：ツアー参加者

・岡部太郎（一般財団法人たんぼぼの家常務理事）

・森下静香（Good Job！センター香芝センター長）

・福森創（工房しょうぶ統括主任）：トークセッションゲスト

人の営みを成り立たせているところにまず、豊かな恵みを与えてくれる自然があるという、産地の魅力を再確認した。そこに様々な人たちの想いや関係性が繋がりがあ、産業のみならず文化を土地に立ち上げている。一方で、時代の変遷にともない経済的合理性の面で課題は膨らんでいる。しかしながら、小規模生産や作家業に活路を見出す人もあらわれている。

障害をもつ人たちが産業、産地、伝統を担うにはどういう取り組みができるのかについても、就労支援施設の声や、コーディネータの重要性の点から話しあった。

視聴者数 218 人（要事前申込・Youtube での配信）

2.1.2.愛知（繊維）

日 程 2020年12月9日(水)、10日(木)

訪問先 ニコニコハウス鶴里・有限会社こんせい、Aya Irodori、cucuri、
久野染工場、木玉毛織株式会社、尾州のカレント、末松グニエ文、
葛利毛織工業

コーディネータ 井上愛（NPO 法人 motif 代表）

浅野翔（合同会社ありまつ中心家守会社共同代表）

調査者 森下静香、坂本栞

絞り染めで有名な有松・鳴海、日本最大の織物の産地である尾州をたずねた。伝福連携の実例や、生産から縫製まで地域内で一貫するあり方や技に魅了されて活動する若い世代の方の話をうかがった。工程やそれを行う場所がたくさんあるからこそ、福祉との掛け合わせにも大きな可能性があると感じた。また、福祉の現場が、産地での新しい取り組みや考え方から学びとれることはたくさんあるはずだと感じた。



○ オンライントークセッション

「絞り染めの有松・鳴海、織物の産地 尾州から考える一障害のある人の表現と伝統工芸の発展と仕事づくりー」

日 時 2021年1月19日(火) (火) 18:00~19:30

出 演 ・彦坂雄大(尾州のカレント代表)

・井上愛

・浅野翔

・坂本栞(たんぼぼの家アートセンターHANAスタッフ)

・森下静香(Good Job!センター香芝センター長)

・岡部太郎(一般財団法人たんぼぼの家常務理事)

ツアー参加者からの報告に加え、尾州地域の若い世代の繊維業関係者が自主的に集まり活動する「尾州のカレント」よりお話を伺った。産地や製品のよさを伝える方法について考え、新しい価値を生み出すべく行なっている活動や、仲間づくりへの姿勢は、福祉の現場でものづくりをするにあたり参考になった。

視聴者数 121人(要事前申込・Youtubeでの配信)

2.1.3.福井（和紙、漆器）

日程 2020年12月17日(木)、18日(金)

訪問先 山次製紙所、ろくる舎、丸廣意匠

調査者 藤井克英、平松克啓

日本三大和紙の一つである越前和紙の産地である越前と、漆器の鯖江にて、3つの工房を訪問した。伝統工芸に由来した確かな技術と物語があること、産地の中における工房のあり方を探究していること、そして個人として・職人としての信念に揺るぎがないことが共通している。個人の動きや考えから産地をつくっていくという強い意志を感じた。



○オンライントークセッション

「和紙の産地・越前、漆器の鯖江から考える一障害のある人の表現と伝統工芸の発展と仕事づくりー」

日時 2021年1月27日(水) 18:00~19:30

出演 ・酒井義夫（ろくる舎主代表 / 木地師）

・藤井克英（Good Job! センター香芝スタッフ）

・平松克啓（Good Job! センター香芝スタッフ）

・図師雅人（たんぽぽの家アートセンターHANA スタッフ）

・森下静香（Good Job! センター香芝センター長）

ツアー参加者からの報告に加えて、鯖江にて木工ろくろに取り組む酒井さんからお話を伺った。反復性・再現性・緻密さ・厳格な材料選定基準といった工芸の習慣を、自分の視点より見つめなおす姿勢がみられた。また、自主製品づくりへの方向転換、コロナ渦を受けての販売先の減少、移動工房の構想や福祉施設との交流など、今後のものづくりの展望をお聞きした。

視聴者数 65人（要事前申込・Youtube での配信）

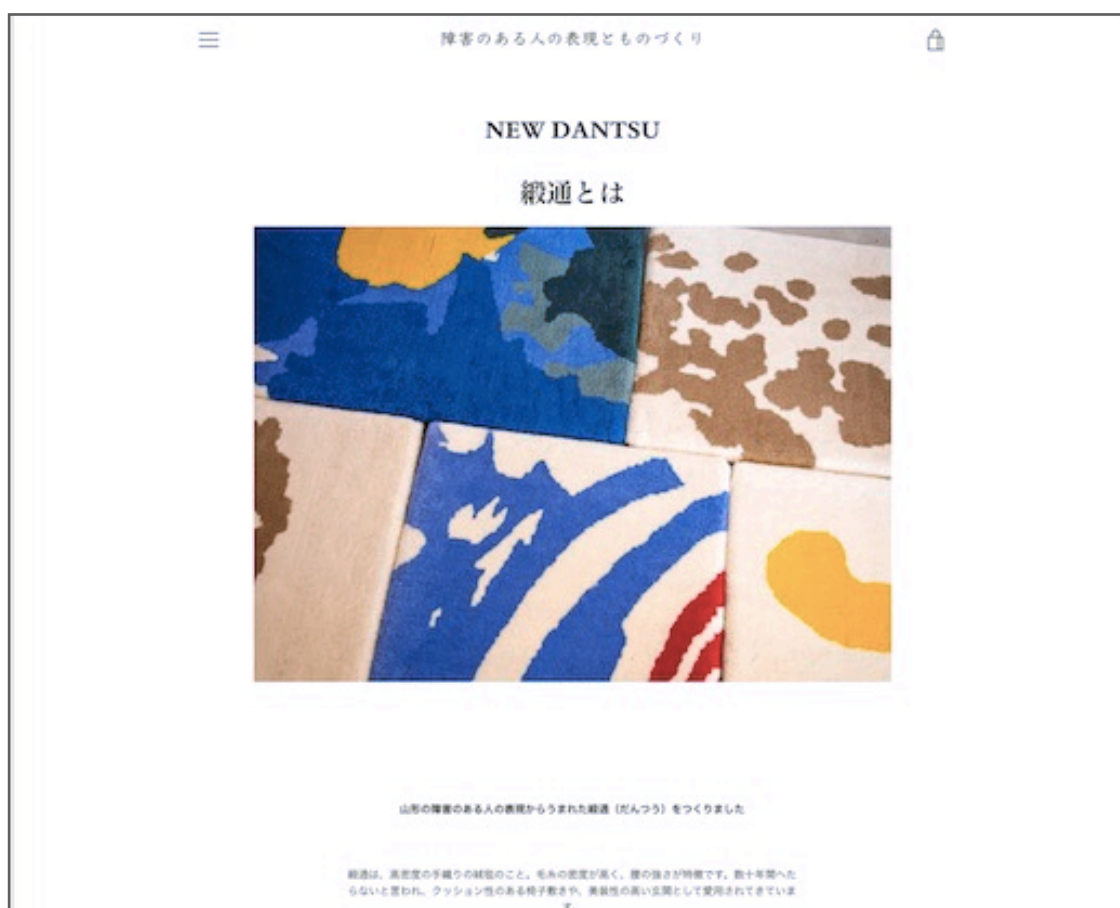
2.2.レジデンス

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した

2.3.ウェブサイトでの掲載と発信

通信販売専用のウェブサイトの新設し、つかう人に届けることをこころみた。商品づくりに関わる人や背景を伝えられるような構成とした。また、ウェブサイト制作にあたっては、GoodJob!センター香芝に通うメンバーが写真撮影などに関わった。

EC サイト「障害のある人の表現と伝統工芸の発展と仕事づくり」
開設 2020年9月



付録

オンライントークアンケート 自由記述欄まとめ

「焼き物の産地常滑から考える ―障害のある人の表現と伝統工芸の発展と仕事づくり―」

・ ZOOM と Youtube を使ったオンライントークイベントの今後の可能性や工夫の余地などを感じました。参加者からのご意見で「このような活動をどのように知れば良いのか?」「福祉と他分野を結びつける役割や職種?はどんなものか」といったような内容がありましたが、自らの仕事

(DIVERSITY IN THE ARTS 情報発信事業です)の意義みたいなものを再認識することができました。福祉と何か、互いを尊重しつつも様々な分野を人や物が横断するために、まず知ることと考えます。今後たくさんの成功事例を積み上げていくことを期待しています。

・ 今までを良しとして活動するのではなく変えるもの残すものを意識していきたい。高橋さんを何人作ることができるかですね。

・ もともとある資源を大切に、繋ぐ人の存在や福祉施設、若い作家などがこれから関わっていけると伝統工芸のよさや大事な思いなどが引き継がれるように思った。その仕組みづくり。繋ぐ人になってみたいが、伝統工芸や地域にある産業とどうやって出会うんだろう?と思った。

・ 以前、企業から織の端切れや B 品の組みひもなどをいただきワークショップなどに使用したが、アップサイクル出来るものの情報共有なども同時に出来たら身近に伝統工芸を感じられ、新たな仕事づくりにも繋がりそう。次回も楽しみにしています。

・ 今回のお話から、今までの生きる為のアート活動から地域と交わる為のアート活動に変化している事を知り、なんだか嬉しくなった。当事者としては、地域と交わる事が当事者にとって必要なのか疑問に思っていたが、話しの内容を復習しつつ思考を整理すると、地域と交わる事が私たちの役割であったなら、支援者として支えてくれる健常者との共通の目標になるのだと気づかされた。また、産業が無い地域でも事業所同士の密な連系があれば、東京という所でも広い範囲でしょうぶ学園風の活動ができると信じたい。最後に、ニュートラという取り組みは静かな社会活動であり、高い技術を持つ工芸と支援によって生まれる穏やかな感性を融合させ、障がいとは離れた世界で生きる人々に衝撃的で感動的な物になる気がしている。いつも新しい視点を下さり、ありがとうございます。

・ 素材から考えるというアプローチが新鮮でした。掘れば粘土がある環境は魅力的です。一方、自身の活動の中でも、視点を変えれば福祉の現場にも様々な素材があるのだろうなと感じました。今後、継続していく必然性のあるものとの出会いがあれば幸せだと思います。素敵なオンライン研修ありがとうございました。たんぽぽの家さんの活動はいつも興味深く感じています。学ぶことがとても多いです。

「絞り染めの有松・鳴海、織物の産地 尾州から考える」

・ ツアーとして、伝統工芸の地を訪ねて、つながりを広げておられる事にとっても感動しました。ものにも人にもそこまでのストーリーが大切だと感じました。私は 26 年ぶりに実家へ戻って地元の良さに気がつきました。古民家や空家に興味があり、それをリフォームして、多世代の集う、助け合え

る場づくりをしたいという夢があります。ひとりではできない事も、同じ想いをを持った仲間と点を線、線を面にしていきたいと思います。

興味はあっても、行けない今のご時世にオンラインでトークを聴くことができ、有難いです。緊急事態宣言ではありますが、だからこそできる、オンラインで知り、それを動いて見に行く。つながって何か新しく作って行けたらとワクワクします。これからもいろんなお話聴けるのを楽しみにしています。

・とりあえずカレントのズボンがほしくなりました。後半で話がでていた「高額に根付けすることに對する心理的なためらい」の話とか凄く深い話ですよね。そのネタだけで多分あらゆる作り手が話を出来ると思う。

たんぼぼの家や Good Job! センターの活動を今まで知らなかったのが悔しい。今遡って常滑のオンライントークの動画を拝見しています。伝統産業と福祉、って相性良さそうですね。職人の地位向上がますます必要だなあと感じます。

・人が欲しいと思えるものを、適正な価格で提供したい（絞り染め従事者です）。コロナ禍で、活動が制限される中、出来る方法でセミナーを行ってくださって感謝しています。ありがとうございます。

・トークイベントに参加させていただき、ありがとうございます。地元の伝統を大切にされていて、そこに、新しい風が入る様に活動されている事がよくわかりました。全国の小さなコミュニティが、それぞれの良さを認め、協力して活動していくストーリーがみえて、私の思う、場づくりと近いと感じました。コロナが落ち着いたら有松、鳴海と尾州見学させていただきたいです。伝統工芸と地元の共生、地元だけでなく全国で活動されているたんぼぼの家の事、もっと知りたくなりました。友達が常滑で、空き家を借りて、リフォームしながら活動する準備をしています。いろんな職種、多世代の協力で理解し合い街をつくっていく活動、教えていただきたいです。

・障がい者が作業工程に交わる事ができるのか、当事者として不安感が湧いたと共に、交わるなら、交わり生き生きとした活動が出来るかも知れない期待感が湧いた。いつも新しい福祉の視点に刺激を受けています。ありがとうございます。



発行日 2021年3月31日

発行元 一般財団法人たんぽぽの家

〒630-8044 奈良市六条西 3-25-4

Tel 0742-43-7055 Fax 0742-49-5501 E-mail tanpopo@popo.or.jp

URL <http://tanpoponoye.org>

編集 一般財団法人たんぽぽの家

協力 Good Job! センター香芝

撮影 衣笠名津美 (p3)、近藤大芝 (p5)、野田恭平 (p6)